ちょっと名大史

189

稲武（いなぶ）・設楽（したら）フィールド（演習林）— 名大の最大地区 —

名大は、国内各地で327万8675 m²の土地を使用しています。その中で面積が最大の地区は、実は東山地区（69万8137 m²）ではなく、稲武・設楽地区（大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター稲武・設楽フィールド）です。面積は159万9511 m²で、名大の使用地全体のほぼ半分を占めています。

同地区は、60年を超える歴史を持っています。農学部が1951（昭和26）年に設置された際、演習林は県立安城農林高校のものを転用する計画でしたが、1955年に愛知県北設楽郡稲武町（現豊田市稲武町）の部落有林164万9328 m²の地上権（60年間）を取得し、農学部附属稲武演習林としました。そのうち、1969年に16万4250 m²、1972年に4万6369 m²の地上権は解消されています。そのほか、1980年に研究実験棟敷地1842 m²、1983年に橋梁敷地11 m²を借り入れました。

また1978年には、稲武町と隣接する北設楽郡設楽町に15万8538 m²の畜産用地を購入しました。すでに設楽町には、同町からの用地や施設の貸与を受けた「草地研究施設」がありましたが、これをきっかけに1979年、農学部の正式な附属施設として山地畜産実験実習施設が設置されました。近年、若干の用地の編入・売却がなされ、現在は15万8949 m²です。

稲武演習林と山地畜産実験実習施設は、2000（平成12）年に大学院生命農学研究科附属となり、2009年にフィールド科学教育研究センターの稲武フィールドと設楽フィールドとなりました。2013年には設楽フィールドが動物の飼育を終了して演習林施設の一部となり、稲武フィールドと運営が統合されました。

2015年には、稲武の地上権契約が満了し、これが借入契約に移行して現在に至ります。

1　赤く囲った部分が稲武フィールドの林地（143万8709 m²）。立木地の90％が人工林化され、主な樹木はカラマツ（約35％）、ヒノキ（約30％）、スギ（約25％）など。
2　初期の稲武演習林庁舎。1983年に現在の鉄筋4階の事務所（研究実験棟）に建て替えられた。
3　山地畜産実験実習施設の庁舎（1988年撮影）。左手前に牛の姿が見える。
4　稲武フィールドでの生物環境科学実験実習（農学部3年生）。そのほかにも、様々な研修会やセミナーに利用されている。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

工学　ベンチャー　青色LED　医学未来人材　アジア法律家　病院　女性リーダー　図書館　経済100周年　修学支援　ジェンダー　農学　保険医療リーダー　ITbM　附属学校

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。　名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/　アクセスはこちらから▶